



世界遺産のアンコールワットをバックに記念撮影



アンコールトム



湖にタライを浮かべ金銭をねだる子ども



親を亡くした子どもたちが孤児院で暮らしています



レストラン学校の子どもにお土産を手渡します



ジャックフルーツの苗を植える参加者たち。カンボジアではジャックフルーツの実を販売し、生計を立てています

日本での幸せな生活を実感 働いてくれている人に心から感謝したい

邑久中学校 2年

峠本 珠里



私がこの「青少年少女カンボジア国際交流事業」に参加しようと思った理由は、将来、海外で働く仕事をしたいと思っているのですが、海外でどんな仕事をしたいか、はっきりと決まっていけません。だから、そのきっかけになればいいなと思って、この事業に参加しました。

この事業では、驚いたことや、思ったこと、今でも頭から離れないことがたくさんあります。驚いたことの一つ目は、カンボジアでは大人はもちろん、とてもたくさんの子どもたちが働いていたことです。私より小さい子でもふつうに働いて

いたことには、びっくりしました。私はカンボジアに着く前、カンボジアの人たちは豊かな暮らしをしていないだろうなあと感じていました。実際に、とても多くの子どもたちが働いていて、自分が思っていた以上に豊かではなさそうだったので、とてもビックリしました。

二つ目は、地雷がとても多いということを実感しました。地雷博物館というところに行った時に、とてもたくさん地雷が置いてありました。このとき私は、ここに置いてある以上の地雷が世の中には埋めてあつたりするのに、何年かけて地雷をとっていくんだろうと、とても不安になりました。なぜなら、地雷博物館で地雷を土の中に埋めて再現しているのを見たけど、

だけにお金をあげるといふことはできませんでした。その後も、片足がない男の子がお金をほしがってきたけど、お金をあげることはできませんでした。とてもかわいそうだったし、とても悲しかったです。

次は、楽しかった事などで、カンボジア最後の日に、朝早く起きてアンコールワットに日の出を見に行きました。日本で見る日の出とは、見え方が全く違います。

が、とてもつらそうな顔をして「1\$, 1\$」みたいなことを言ってきました。とてもかわいそうに思いました。何分後かにそのお母さんは、足をガクガクさせながらどこかに行つてしまいました。あのときの光景は今でも目に焼きついていきます。あのとき、お金をあげなかったけど、カンボジアにはそういう人がたくさんいるから、その人

ただに金をあげるといふことはできませんでした。その後も、片足がない男の子がお金をほしがってきたけど、お金をあげることはできませんでした。とてもかわいそうだったし、とても悲しかったです。



肌寄せ合って生活する家族

私は人に教えてもらうまで、どこに地雷が埋めてあるのか全く分かりませんでした。こういうので、片足や片腕などをなくしている人が現にいるし、これ以上増えるのは嫌だから、できることならできるだけ早く地雷をこの世からなくしてほしいと思います。

三つ目は、カンボジアの子どもたちは、とても日本語が上手なことに驚きました。最初に行ったレストランでは、「レストラン学校」といって、ほとんど子どもが働いているレストランで、カタコトだけど、日本語でいろいろ話しかけてくれた

ので、とても話しやすかったです。すぐ友達になれました。どうしてこんなに日本語が話せるのかというと、カンボジアの学校では、他の国の言葉も勉強しているけど、日本語も勉強しているところがあるからだと思います。働きながら、学校にも行って、カンボジア語以外にも他の国の言葉も話せるといふことは、すごいと思います。

四つ目は、今でも頭から離れない事で、カンボジアに着いた次の日に、お金の両替所に行ったときの事です。バスの外から、赤ちゃんをだっこしたお母さん

た。日本の日の出もキレイだけど、カンボジアで見た日の出もすごくキレイでした。一旦、ホテルに戻ってからは、朝食を食べて、またアンコールワットに行きました。アンコールトムにも行きました。世界遺産を生で見た事もなかったし、触った事もなかったの、生で見れた事や、触れた事にとっても感動したし、うれしかったです。

私がこの事業に参加して特に思ったことは、カンボジアの人たちは、とても人なつっこくて、優しい人たちがたくさんいることでした。私はカンボジアに行く前に、カンボジアの人たちは、貧しい人たちばかりだと思っていました。それは、カンボジアに行って実感したけど、そんな苦しい生活だからこそ、小さいころから働いて頑張っている姿を見てとても感動しました。私は、普通に学校に行つて、その

間に親が働いてくれて、それが当たり前のことだと思つていたけど、それはちがうことだと、カンボジアに行つて気付くことができました。

私は、カンボジアから帰つてきて、日本に生まれた私たちがどれだけ幸せな生活をしているかということが、実感することができました。だからこそこれからは働いてくれている人に心から感謝しようと思つたし、みんなにも感謝してほしいと思えました。

私はこの事業に、将来海外でどんな仕事をするかのきっかけになればいいなと思つて参加したけど、カンボジアの今の現状を理解し、学ぶ事に必死でそれぞれの場所ではなかったです。でもカンボジアの事を少しでも知ることができたし、いろんなことに関して気付くことができましたので、この事業に参加して本当によかったと思えました。